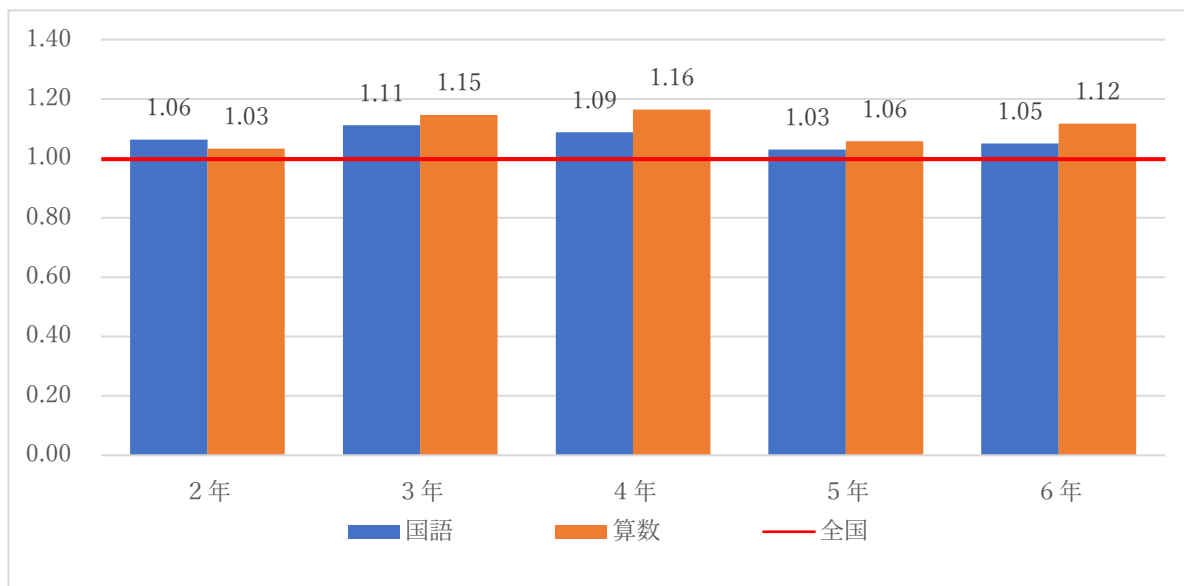


令和5年度 全国学力・学習状況調査及び学習到達度調査について

第十中学校区 宇谷小学校

○調査結果（全国平均を1とした場合の平均正答率の比）



※小学2～5年生は学習到達度調査、小学6年生は全国学力・学習状況調査の結果

○調査結果についての分析、今後の改善方策

学習到達度調査	国語	全国平均を上回っており、学力については概ね良い傾向であると考えられる。「わからない言葉を辞書で調べる」など、主体的に学習に取り組む姿勢が高い児童の成績が良い傾向にある。
	算数	全国平均を上回っており、学力については概ね良い傾向であると考えられる。「いろいろな考え方を発表する」など、答えを導く過程(根拠を基に考え記述する力)を大切にしていける必要がある。
全国学力・学習状況調査	国語	全国平均を上回っており、学力については概ね良い傾向である。「話すこと・聞くこと」で得点が高く、一定の条件下での伝え方について、的確に答えることができている。
	算数	「思考・判断・表現」において、記述式で答える設問の正答率が高く、普段の授業の中で理由を考える力が育成されていると考えられる。また、「データの活用」領域については、全国平均は上回っているものの課題となる分野である。今後、より論理的な記述ができるように、ディベート授業などで、日常の学習の中で、理由を考える課題にチャレンジしていく。
	質問紙	「人が困っているときは、進んで助けていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の肯定的な回答数値が全国平均以上であった。日頃から児童が「みんなのため、人のため」と考え、行動しているためであり、引き続き児童の成長を促していく。

○学力向上の取組

【 中学校区 】

中学校区として、学力向上への取組を各小中一貫部会にて、組織的に取り組んでいく。また、校区における三校の授業交流を通して授業改善を試み、ディベート教育の充実、家庭学習ノートの充実、英語力の向上に特化した取組を実施していく。

【 学 校 】

学力については、概ね良い傾向にあるが、継続して「考える力」の育成をめざし、ねやがわスタンダードを基盤に日々の授業の創意工夫を図っていく。また、今後、自己肯定感を醸成する取組を積極的に行い、主体的に学ぶことで将来にわたって生きて働く力となる学力を身に付けさせる。